

そうだ！ 銅鐸博物館へ行こう！

10月1日

リニューアルオープン！

博物館の玄関を入るとドーンと迫力のある金色に輝く銅鐸。

皆さんご存じのとおり、野洲市は日本で一番大きい銅鐸（高さ 134.7 cm）が発掘された銅鐸のまちです。

今月は、今年開館 20 周年を迎える歴史民俗博物館（愛称：銅鐸博物館）が 10 月にリニューアルオープンするのにあわせ、博物館の利用案内やリニューアルの概要を紹介します。

皆さん、歴史民俗博物館を訪れ古代へタイムスリップしませんか！



竪穴住居と高床倉庫

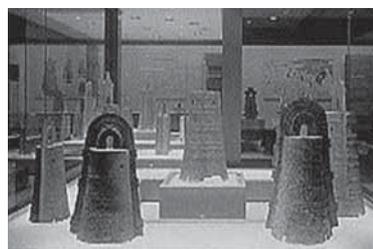


史跡宮山二号墳

敷地内にある直径約 15 m の円墳で、横穴式石室の中に入って見学できます。国史跡「大岩山古墳群」8 基のうちの一つです。

弥生の森歴史公園
博物館に隣接している弥生の森歴史公園は、弥生時代の人々の生活や文化を実物大で体験できる公園です。復元した竪穴住居 4 棟、高床倉庫 1 棟があり、中に入って見学することもできます。水田では「古代米」といわれる赤米や黒米を栽培しており、毎年、貫頭衣かんづゐを着て田植えを行う「赤米作り体験教室」も開催しています。このほか、体験学習として人気の「まが玉作り」や「土器作り」など、さまざまなメニューがあります。

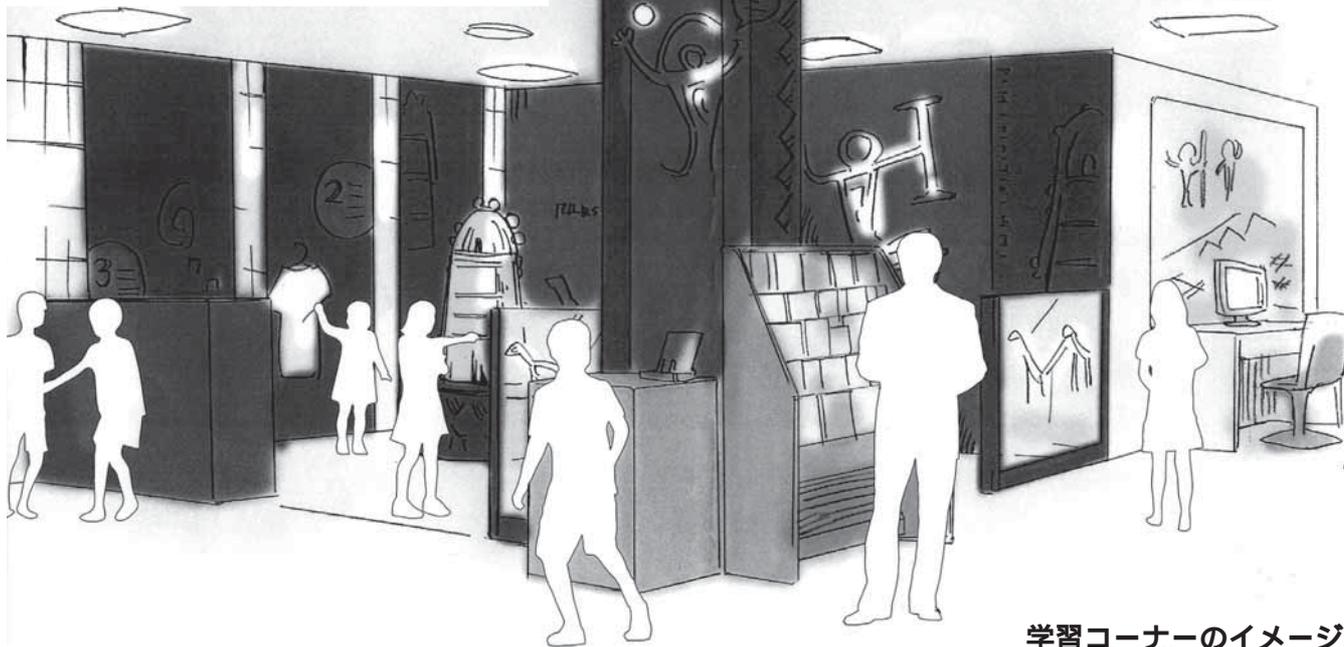
昭和 63 年 11 月に野洲町立歴史民俗資料館（合併後「野洲市歴史民俗博物館」）として開館し、この秋 20 周年を迎えます。「銅鐸博物館」は当初から愛称で用い、野洲を代表する文化財である「銅鐸」と、地域の歴史や民俗に関する資料を収蔵・展示するなどさまざまな活動を行っています。県内でも数多くの国・県指定文化財を有する野洲市。博物館の来館者はオープン以来、延べ 35 万人にのぼります。市民はもとより、市内外の学校等にも多く利用されています。また、季節に応じてさまざまな企画展を開催しており、銅鐸だけでなく市内の文化財もたくさん展示しています。



歴史民俗博物館

1階エントランスホール

人物や伝説などの紹介パネルも新設し、調べ学習や郷土史研究に活用いただけます



学習コーナーのイメージ図

2階展示室

博物館は、開館20周年を機にリニューアルオープンします。「新市にふさわしい博物館づくり」をコンセプトに、常設展示では、2階を中主地域の資料を加えた展示構成にします。

また、学校の調べ学習や自治会の郷土史づくりをはじめ、地域の歴史に関する情報提供や学習機能のニーズが高まっていることから、1階エントランスホールに「市民交流」「学習拠点」の場となるよう学習コーナーを設けます。

市民活動や地域づくりのための施設としても利用できますので、皆さん気軽に博物館へお越しくください。

御明田古墳群出土埴輪



矢放神社の大殿若経
(滋賀県指定文化財)



杉田静山さん
(滋賀県無形文化財保持者)



昔の須原の水路
(辻本壽さん提供)



西河原森ノ内遺跡出土木簡

